

平成30年度

推薦入試学生募集要項

- 文 学 部
- 公共政策学部
- 生命環境学部

京 都 府 立 大 学

目 次

◎ 平成30年度京都府立大学推薦入試学生募集要項	
アドミッション・ポリシー	1
1 概 要	10
2 出願資格及び選抜方法	11
3 推 薦 条 件	12
4 試 験 場 及 び 日 時	13
5 出 願 手 続	14
6 身体等に障害のある入学志願者との事前相談	15
7 不正行為について	15
8 その他推薦入試の注意事項	15
9 悪天候・災害等の試験実施について	16
10 入学手続及び学費等納付金	16
11 試験成績の開示について	16
試験場案内	

◎ 添付書類

- 推薦書
- 志望理由書（生命分子化学科、農学生命科学科、
環境デザイン学科及び森林科学科志願者用）
- 入学願書等＜A票～D票＞
- 出願用封筒

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【文学部】

教育の理念・目標

文学部は、人間の文化的・社会的営為に関する人類の叡智を継承し、ことばと文学、歴史と文化遺産にかかわる専門領域を深く教育・研究するとともに、その成果を広く社会に還元します。さらに現代社会・地域社会が提起する諸課題にこたえるために、知の拠点として、つねに新たな教育・研究領域を開拓することを目指し、次のような人材の育成を目標とします。

1. 人文学のたゆまぬ研究と教育を通じて、幅広い教養を備えるとともに、豊かな人間性と高度な専門性を身に付けた人材を育成します。
2. 教養と専門知識を融合させ、総合的な視野や多様な価値観を養うことにより、地域文化・地域課題をにない、また、国際化社会にも貢献しうる人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

文学部では、次のような能力を修得している学生を求め、入学者選抜の方針を定めます。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

- 1 高等学校等で修得する十分な基礎学力
- 2 日本語および外国語を通じた異文化理解
- 3 知識や経験を総合し、課題の解決へと導く思考力
- 4 日本および世界の文化・歴史に対する正確な知識
- 5 自己の見解を的確に示す表現力や論述力
- 6 学校内外での主体的な取り組みや他者との協働活動
- 7 志望分野に対する問題意識

【入学者選抜の方針】

文学部では、こうした学生像や「文学部の教育の理念・目標」に適する能力を考査・選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜のほか、推薦入試、編入学試験を実施します。各試験における審査の観点や判定方法等は、各学科において定めています。

【日本・中国文学科】

日本・中国文学科は、日本と中国の言語・文学について探究することを目的として、日本語学・日本文学・中国文学について、相互の関連を踏まえながら専門的な教育・研究を行い、各分野について深い知識を持ち、かつ三分野を関連づけて思考することのできる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

日本・中国文学科では、日本や中国の言語や文学に対して強い関心を持ち、同時に人間や社会に対して幅広く目を向け、自ら問題を発見し、解決しようとする意力を備え、また、文献の読解に取り組む粘り強さと、多角的な視点からものごとを見る柔軟さを持った学生を求めます。そのために必要な能力は以下のとおりです。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

- 1 高等学校での基礎的諸教科、とりわけ国語、外国語、地理歴史、公民についての十分な学力
- 2 異文化理解に資する外国語・日本語の運用能力
- 3 日本や中国の文化を言語や文字などを通して考察できる能力
- 4 世界、特に日本・中国の文化・歴史に対する正確な知識
- 5 自らの問題意識を論理的・客観的に文章化して表現する能力
- 6 主体性を持って他者と協働する能力
- 7 日本語学・日本文学・中国文学に対する問題意識

【入学者選抜の方針】

日本・中国文学科は、こうした能力を持つ学生を考査・選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1～4についての基本的な能力は大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）により、また、1～4の応用的な能力および5については記述式問題を重視した3教科（国語・外国語・歴史）の個別学力検査によるバランスのとれた学力を考査し、全体に国語の配点を高め、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせて入学者を選抜する。

●一般選抜（後期日程）

上記1～4についての基本的な能力は大学入試センター試験（国語、地理歴史・公民、外国語）により、また、1～4の応用的な能力および5については記述式問題を重視した個別学力検査において国語により秀でた学力を考查し、全体に国語の配点を高め、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせる入学者を選抜する。

●推薦入試

上記1～4についての基本的な能力および6・7については推薦書・調査書により確認するとともに、1～4の応用的な能力および5については記述式問題により優れた学力を評価し、総合的に入学者を選抜する。

●編入学試験

上記1～4についての基本的な能力は調査書または成績証明書により、また、1～4の専門的な能力および5については筆記試験、6・7については志望理由書および面接により確認し、総合的に入学者を選抜する。

〔欧米言語文化学科〕

欧米言語文化学科は、多文化共生の時代に必要な異文化理解を深めることを目的として、欧米言語文化・英語学・比較言語文化・日英翻訳文化の教育研究を行い、高度な外国語運用能力・柔軟な思考力・問題発見能力・自己表現力を備えた、広い国際的視野を持った人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

欧米言語文化学科では、広い視野と関心を持って、独自の視点から問題を探求し、客観的かつ多面的考察・分析をおこない、その成果を論理的な言葉で表現できる人材を育成します。入学試験にあたっては、こうした欧米言語文化の研究手法に対する能力・適性を考查し、入学者を選抜します。したがって本学科では、以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

- 1 教養の基礎となる高等学校等で履修する基本的な知識と理解力
- 2 日本語と外国語の優れた言語能力
- 3 言葉の力や人類が培ってきた様々な思想を理解するための共感能力、柔軟な思考力と問題把握能力
- 4 過去から現代に至る欧米と日本の文化・社会に強い関心を持ち、言葉の仕組み、機能を理解し、思考する能力
- 5 自ら見出した問題を論理的に考え、自分の言葉で表現する能力
- 6 学校内外での主体的な取り組みや他者との協働活動への意欲
- 7 欧米言語文化に対する問題意識

【入学選抜の方針】

欧米言語文化学科は、こうした能力を持つ学生を考查・選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせる一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1～4の基本的な知識および理解を考查する大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）と1～4の応用力と5について外国語ならびに国語の文章読解力や文章作成力、論理的な思考力、歴史に関する適切な理解を通じて適宜考查する個別学力検査（国語・外国語・歴史）を組み合わせる入学者を選抜する。

●一般選抜（後期日程）

上記1～4の基本的な知識および理解を考查する大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）と1～4の応用力と5について欧米言語文化学科の求める高度な外国語理解力や外国語文章作成力、論理的な思考力を通じて適宜考查する個別学力検査（外国語）を組み合わせ、後者の配点をその他の科目よりも高くして入学者を選抜する。

●推薦入試

上記1～4の基本的な能力および6・7については推薦書・調査書により確認するとともに、1～4の応用力および5については記述式問題により考查し、総合的に入学者を選抜する。

●編入学試験

上記1～4についての基本的な能力は調査書および成績証明書により、また、1～4の応用力および5については筆記試験により、6・7については志望理由書により確認し、総合的に入学者を選抜する。

〔歴史学科〕

歴史学科は、人間の文化的・社会的営為について歴史と文化遺産に関わる専門的領域を考究することを目的として、日本を中心としてひろく世界についてその社会と文化、思想の歴史的展開に関する

教育研究を行い、人類の過去と現在、未来に対する洞察力、分析力をもつ人材、さらに歴史的遺産を理解しその継承に資する人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

歴史学科では歴史学に対する深く幅広い知見を備え、資史料を運用する能力、文化遺産を調査・保存・活用する能力を備えた人材を育成します。入学試験にあたっては、こうした歴史学の研究方法に対する能力・適性を考査し、入学者を選抜します。本学科では、そのために以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

- 1 高等学校で修得する諸教科、とりわけ国語、外国語、地理歴史についての十分な基礎学力
- 2 自国の文化及び異文化に対する十分な理解
- 3 歴史研究の基礎となる資料や文献の読解に必要な思考力・解釈力・想像力
- 4 日本および世界の歴史に対する正確な知識
- 5 自己の見解を的確に示す表現力や論述力
- 6 学校内外での主体的な取り組みや、他者と協働する協調性
- 7 歴史学に対する深い関心、文化遺産の調査・保存・活用に対する強い意欲

【入学者選抜の方針】

歴史学科では、こうした能力を考査するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1～4についての基本的な能力は、大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）によって評価する。また1～4の応用的な能力および5については、記述式問題を重視した3教科の個別学力試験（国語、外国語、歴史）により、評価する。

●一般選抜（後期日程）

上記1～4についての基本的な能力は、大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）により、評価する。また1～4の応用的な能力および5については、記述式問題を重視した個別学力試験（歴史）によって評価する。特に歴史1教科の個別学力試験を課すことにより、④に秀でた学生を選抜する。

●推薦入試

上記1～4についての基本的な能力および6・7については、推薦書・調査書によって確認するとともに、1～4の応用的な能力および5については、小論文などによって評価し、総合的に入学者を選抜する。

●編入学試験

上記1～4についての基本的な能力は、調査書または成績証明書によって評価する。また、1～4の専門的な能力および5については筆記試験、6・7については志望理由書および面接により確認し、総合的に入学者を選抜する。

【公共政策学部】

教育の理念・目標

公共政策学部は、生涯にわたる人間発達を多様に実現しうる社会（福祉社会）を、個人、NPO、地域コミュニティ、企業、行政などが協働して築くために、より高い政策立案能力や問題発見・解決能力を持った人材、地域における福祉や人間形成の担い手となる人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

公共政策学部では、次のような能力を修得している学生を求め、入学者選抜の方針を定めます。

【入学前に修得しているべき能力等】

- 1 高等学校等で修得する十分な基礎学力
- 2 知識や経験を総合し、課題の解決へと導く思考力
- 3 自己の見解を的確に示す表現力や論述力
- 4 志望分野に対する問題意識
- 5 公共政策学科および福祉社会学科が求める能力

【入学者選抜の方針】

公共政策学部では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。各試験における審査の観点や判定方法等は、公共政策学科および福祉社会学科がそれぞれ具体的に定めることとします。

〔公共政策学科〕

公共政策学科は、福祉社会の創造を目的として、法学・政治学・経済学をはじめとする社会科学の諸分野から公共政策のあり方についての教育研究を行い、地域・自治体の政策立案及び管理運営に寄与しうる能力を有する人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

公共政策学科では、住民が心ゆたかに暮らせる地域づくりにとって必要かつ有用な法学、経済学、政治学の理論を修得し、地域社会が抱える問題を的確に把握するとともに、それを解決するための政策を立案する能力を養い、さまざまな個人、NPO、地域コミュニティ、企業、行政など多様な主体が協働して築き上げる「公共政策」のあり方を学びます。入学試験においては、こうした教育研究に適した能力・適性を有するかを考査し、入学者を選抜します。

【入学前に修得しているべき能力等】

- 1 高等学校等で履修する国語、地理歴史または公民、理科、数学、外国語についての基本的な知識
- 2 日本語および外国語の文章読解力および文章作成力
- 3 現代社会の制度・政策に対する理解（または関心）。また、国や地域（社会）の発展のため、制度・政策の問題点を発見し、解決しようとする意欲
- 4 現代社会が求める幅広い思考力、柔軟な発想力および自分の言葉で表現できる能力
- 5 地域（社会）と積極的に関わり、修得した能力・知識を活用して地域（社会）に貢献するとともに、自己実現を目指す意欲

【入学者選抜の方針】

公共政策学科では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜（前期日程・後期日程）

▼大学入試センター試験：公共政策学が学際性を有しその研究には幅広い知識を要することから、大学入試センター試験では、高等学校等で履修する主要科目（国語、地理歴史または公民、理科、数学、外国語）について、文理の別なく、基本的な知識を有するかを考査します。

▼個別学力検査：前期日程では、英語と国語を課し、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を有するかを考査します。後期日程では、小論文を課し、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を基盤に、社会問題を解決するために必要な柔軟な発想力を有するか、また、自分の言葉で表現できる能力を有するかを判定します。

●推薦入試

推薦入試では、調査書によって、地域貢献および自己実現に求められる主体性および積極性を確認し、小論文において、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を基盤に、社会問題を解決するために必要な柔軟な発想力を有するか、自分の言葉で表現できる能力を有するか、さらに、実証研究に必要なデータ分析能力を有するかを判定します。また、推薦書によって、学科の教育研究で必要となる問題への関心および主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を備えているかを確認します。

●編入学試験

▼筆記試験：英語では、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を有するかを考査します。小論文・用語解説では、小論文において、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を基盤に、社会問題を解決するために必要な柔軟な発想力を有するか、また、自分の言葉で表現できる能力を有するかを判定し、用語解説において、編入学後に耐えうる専門的な基礎知識を有するかを判定します。

▼面接：面接では、筆記試験で判定する能力等を口頭で確認するとともに、志望理由書を踏まえ、地域貢献および自己実現に求められる主体性および積極性を確認します。

〔福祉社会学科〕

福祉社会学科は、福祉社会の創造を目的として、社会福祉学・社会学・教育学・心理学等の諸分野から教育研究を行い、地域の福祉と人びとの生涯発達に寄与しうる能力を有する人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

福祉社会学科では、社会福祉学・社会学・教育学・心理学などの専門分野の教育研究を通して、人々が直面するさまざまな生活問題や福祉ニーズに対応して、人々の生活を支援する政策・制度・方法と実践のあり方を学ぶ（社会福祉学群）とともに、人間の成長・発達や行動・相互作用、そして教育のあり方について科学的な理解を養います（人間形成学群）。入学試験においては、こうした教育研究に適した能力・適性を有するかを考査し、入学者を選抜します。

【入学前に修得しているべき能力等】

- 1 高等学校での基礎的諸教科（国語、数学、外国語、地理歴史・公民、理科）についての十分な学力を有している。
- 2 人間の福祉と社会連帯のあり方に実践的な関心を持ち、地域と社会の現実的問題を把握している。
- 3 人間の発達、行動、教育と社会形成の課題を理解し、その解明に強い関心を持っている。
- 4 これらの福祉・社会・教育・心理の問題を論理的に考え、自分自身の意見を持ち、それを整理して表現できる基礎的な学力を有している。

【入学者選抜の方針】

福祉社会学科では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜（前期日程・後期日程）

- ・前期日程・後期日程ともに大学入試センター試験の5教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）の試験科目を通して、高等学校での基礎的諸教科の学力を十分に備えているかを判定する。
- ・福祉、社会連帯、地域、人間の発達・教育、社会形成といった多様な人々の関わる問題を考え抜く論理的な思考力・判断力、そしてそれらに対する自分の考えを表現する力を見るため、大学入試センター試験の地歴・公民の配点を他教科の2倍にし、前期日程個別学力試験では国語と英語を、後期日程の個別学力試験では小論文の試験を実施する。前期日程は基礎学力を重視するのに対して、後期日程では学科での学びに関連する多様な資料を理解した上で自分の考えを展開する論理的な思考力を重視する。

●推薦入試

高等学校における基礎的諸教科について優秀な成績を修めた受験生を対象として、福祉社会の実現に関する諸問題を扱った文章や数量データを読み解き、自分自身の答えを論理的に導き出し、まとめあげる力を調べる小論文の試験を実施し、学科の教育研究に適した能力を有するかどうかを判定する。また、推薦書・調査書を通して、学科の教育研究で必要となる福祉・地域・人間発達・教育の問題への関心および主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を備えているかを確認する。

●編入学試験

▼筆記試験：英語の試験では、英語の基礎的な知識の有無を判定すると同時に、福祉や公共政策の諸問題に関連する内容の英文を読み解くことで、論理的な思考力および文章作成能力を調べると同時に、学科の教育研究領域への関心を確認する。小論文・用語解説では、小論文において、学科での学びに必要な読解力、論理的な思考力、文章表現力を調べるとともに、福祉、地域、人間の発達・教育、社会形成等の問題への関心と理解の深さを調べる。また、用語解説では、入学後の学習に必要な専門分野の基礎知識を有しているかを判定する。

▼面接：面接では、志望理由書をベースに学科の教育研究領域への関心および多様な人々と協働して学ぶ態度を備えているかを確認する。

【生命環境学部】

教育の理念・目標

生命環境学部は、「生命」と「環境」に関わる諸領域の学術を学際的、総合的に考究することを目的として、人間の生活や産業などの諸活動と自然環境との共生を図るための知識と技術を身につけられるようにします。具体的には、

- 1 生命分子機能の応用
- 2 生物機能開発と食料生産の向上
- 3 食環境と健康の向上
- 4 自然環境と情報環境の向上
- 5 人間生活と住環境の向上
- 6 森林の保全と利用

に関わるそれぞれの領域で、第一線で活躍できる人材育成を目標としています。

アドミッション・ポリシー

生命環境学部では、生命や環境に関して深い関心を持ち、それらが関係する領域の第一線で活躍する意欲に溢れる次の資質を持つ人を求めています。

【入学前に修得しているべき能力】

- 1 高等学校等における各種学習内容を幅広く理解している。
- 2 生命と環境に関する基礎学問である自然科学系科目を論理的に理解している。
- 3 論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自分の考えを的確に述べる基本的なコミュニケーション能力を身につけている。

【入学者選抜の方針】

本学部の入学試験では、一般選抜においては、大学入試センター試験において1について評価すると共に、特に前期日程において、個別学力検査を実施することで2について記述式問題の解答を通じて評価します。さらに推薦入試では、3に対する評価も実施して優れた人材を見出します。それぞれの入学試験における配点は、学科ごとに異なりますが、いずれもそれぞれの学科が求める基礎学力に応じたものとしています。編入学試験では、環境・情報科学科と環境デザイン学科が実施しており、それぞれの学科が求める基礎学力や意欲に応じる人材を見いだすための評価を行います。

〔生命分子化学科〕

生命分子化学科は、生命現象と生命環境を分子レベルで理解し、科学の進歩と社会の科学的課題の解決に貢献することを目的として、少数精鋭の実験を重視した体系的な生命化学の教育研究を行い、広い視野と論理的思考力を有し、専門知識と先端技術を展開して社会に貢献できる次のような人材の育成を目指します。

- 1 「化学」を基盤として生命科学を学び、生命現象の解明、医薬品開発、機能性材料の創成、地球環境の保全といった社会の要請に応える人材を育てます。
- 2 高い倫理観と使命感に裏付けられた問題発見・提起力とともに、着実な論理の積み重ねによる問題解決能力を身につけた社会を先導する人材を育てます。

アドミッション・ポリシー

生命分子化学科では化学をはじめとする理科に強い興味があり、論理的で、自主性と想像力に富んだ人間性を高めたい人を求めます。また、入学後も一層の勉学意欲と向上心を持ち続け、厳しい学力評価に耐えうる心構えを持っていることが望まれます。

【入学前に修得しているべき能力】

生命分子化学科が求める学生は、入学前に次のような資質を有している必要があります。

- 1 高等学校での基礎的諸教科（国語、数学、理科、外国語、地理歴史・公民）について十分な基礎学力を身につけている。
- 2 特に化学、物理、生物、数学のいずれか、もしくはいくつかに秀でている。
- 3 基本的な読解力・思考力・表現力を兼ね備え、基礎課題に対して自らの表現方法で的確に解答できる。
- 4 グループ実験や研究活動を遂行するための論理的思考力・コミュニケーション能力・協調性が高く、積極性とチャレンジ精神に富んでいる。

【入学者選抜の方針】

生命分子化学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

- 一般選抜（前期日程）
大学入試センター試験において国語、数学、理科、外国語、地理歴史・公民を課して上記1を評価するとともに、個別学力検査において記述式問題を中心とする数学、理科、英語を課して上記3を評価する。個別学力検査では、上記2の観点から理科の配点を高く設定する。
- 一般選抜（後期日程）
大学入試センター試験において国語、数学、理科、外国語を課して上記1を評価する。上記2の観点から理科および数学の配点を高く設定する。
- 推薦入試
高等学校までの英語および理科系科目全般について、基礎力と思考力を合わせた総合的な学力を身につけていることを求めるとともに、推薦書・調査書・志望理由書・面接において上記1と4を評価する。面接では上記2の観点からの評価も重視する。

〔農学生命科学科〕

農学生命科学科は、「ゲノムから生産まで」の方針のもと、生物機能の開発とその高度利用技術、それらの社会経済的側面について教育・研究を行い、農業とそれに関連する諸産業の発展に広い視野をもって寄与できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

農学生命科学科では、本学科の方針である「ゲノムから生産まで」にふさわしい学生を求めため、次のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に習得しているべき能力】

農学生命科学科では英語、国語、数学、理科（生物、化学、物理）の基礎学力があることを前提として、以下の素養を身につけた学生を求めます。

- 1 生物・生命の諸性質や機能に対する興味、そして未知の課題を探求する勇気と強い意志を持ち、生物に関する知識だけではなく、それらを活用して未知の課題に論理的に取り組むことの出来る能力。
- 2 科学の基礎的な問題だけではなく、実社会の問題に取り組み、日本や世界の農業と食料の問題、それらに関連する技術、流通経済、諸産業などに興味をもち、自律的に考え、学ぶ態度。
- 3 科学技術が急速な発展・変貌を遂げている現代において常に新しい困難な課題に取り組むことが求められているため、学部4年間の学習を基礎として大学院に進学し、農学生命科学の最先端の課題にチャレンジし、人類の知と技術の地平を積極的に切り拓きたいという意欲。

【入学者選抜の方針】

農学生命科学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

●一般選抜（前期日程）

高等学校までに履修する全ての教科のうち、大学入試センター試験で指定された教科（国語、地理歴史・公民、数学、理科、英語）に加え、独自に実施する試験で正確な知識に基づき論理的に解答する能力を求めます。数学、理科については傾斜配点により理系分野の基礎学力の高い学生を選抜する。

●一般選抜（後期日程）

高等学校までに履修する全ての教科のうち、英語と、理系分野に相当する大学入試センター試験の指定教科（数学、理科）について、正確な知識に基づき論理的に解答する能力のある学生を選抜する。

●推薦入試

高等学校までの英語および理科系科目全般について、基礎力と思考力を合わせた総合的な学力を身につけていることを求めます。加えて社会の様々な動向にも興味や問題意識をもち、それらを分析しようとする探究心と自分の考えを正確に他人に説明する能力をもつ学生を、提出された推薦書・調査書・志望理由書の精査と面接などを含む試験により選抜する。

〔食保健学科〕

食保健学科は、「食」を通して生活の質を向上させることを目的として、「食」と「健康」を取り巻く要因を総合的に捉え、望ましい食生活のあり方について教育研究を行い、「食」に関する高い見識を持ち、課題解決能力を持った、社会に貢献できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

食保健学科では「食」と「健康」を取り巻く要因を総合的に捉え、それについての知識を学び、その知識を生かして社会に貢献したい学生を求めます。

【入学前に修得しているべき能力】

食保健学科では、次のような資質を持つ人を求めています。

- 1 高等学校までの基礎的諸教科（国語、数学、理科、外国語、地理歴史・公民）について十分な基礎学力を身につけている。
- 2 理科は理科関連科目（化学と生物を履修していることが望ましい）を12単位以上履修している。
- 3 基本的なコミュニケーション能力を身につけている。
- 4 自分の考えを的確に伝えるための表現力を身につけている。
- 5 食や健康分野に興味関心があり、この分野を生涯にわたって学ぶ意欲を持っている。
- 6 課題の発見・解決への貢献と知識探究に意欲を持っている。
- 7 多様な状況下で、相手の立場や多様性を尊重できる協働性を身につけている。

【入学者選抜の方針】

食保健学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

●一般選抜（前期日程）

基礎力の把握のために、大学入試センター試験（5教科7科目）と個別学力検査（英語、物理・化学・生物から2科目選択）を課し、高等学校で修学した基本的な知識と理解力について評価する。

●推薦入試

推薦書、調査書、小論文および面接により総合的に評価し、入学者を選抜する。

小論文では、課題に対する知識、理解力、英語力、分析力、論理的思考力、表現力等を評価する。面接では、食保健学科の学びの目的意識や意欲、およびコミュニケーション力を総合的に判断する。

〔環境・情報科学科〕

環境・情報科学科は、自然環境、情報環境の向上を目的として、生物学、化学、物理学、情報学、数学にわたる教育研究を行い、科学技術を生活の向上に生かすことができる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

理工系分野で世界に通用する専門家になるためには、まず好奇心と論理的思考力と表現力が必要です。各理系科目を暗記ではなく理解して、自分の言葉でその内容を語る能力があるかを重要視します。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

環境・情報科学科では、次のような資質を持つ人を求めています。

- 1 高等学校等において各種の学習内容を幅広く理解している。
- 2 思考力・判断力・表現力を兼ね備え、培われてきた学力を基に自分の考えを的確に記述できる。
- 3 普通科の生徒については、数学Ⅲと理科12単位以上を修得している。情報科学科の生徒については、数学は数学Ⅲ関連科目を修得し、理科は理科関連科目（本来の理科科目の他に情報関連科目などを含める）を12単位以上修得している。工業高校の生徒については、数学は数学関連科目（本来の数学科目の他に、応用的な数学を主たる内容とした科目も含める）を13単位以上修得している。理科は理科関連科目（本来の理科科目の他に、応用的な理科を主たる内容とした科目も含める）を12単位以上修得している。
- 4 柔軟な発想のもとに思考し、豊かな創造性を身につけている。
- 5 社会に役立つ物質の創成、新しい技術の開発への夢を語れる。
- 6 先端科学技術を人々の生活の向上に生かそうという意欲をもつ。

【入学者選抜の方針】

環境・情報科学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜(前期日程)

上記1について、大学入試センター試験において、国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語を課す一方で、上記2について、個別試験の配点を高めに設定し、数学、理科を課し、記述式問題を重視する。

●推薦入試

上記3について、これを推薦条件に含め、上記1、2、4～6について、推薦書、調査書、テーマ作文、面接の総合判定を行う。

●編入学試験

一般選抜では、上記1、2、4～6について、調査書または成績証明書、英語および専門科目の筆記試験、面接の総合判定を行う。

推薦選抜では、上記1、2、4～6について、推薦書、調査書または成績証明書、小論文、面接の総合判定を行う。

〔環境デザイン学科〕

環境デザイン学科は、豊かな生活環境の実現を目的として、住居・建築学、生活デザイン・ランドスケープデザインについて教育研究を行うことにより、広い教養と総合的な判断力を持ち、人と環境に優しい生活環境と生活様式の創造ができる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

環境デザイン学科では、人と環境にとって望ましい住居、建築、都市、地域、暮らしのデザインについて、生活者の視点から科学的に追及し、総合化し提案する意欲のある人を求めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

環境デザイン学は、住居・建築学を基盤としつつ、循環型社会、ランドスケープ、プロダクト、生活美学などを包摂する幅広い専門領域にわたります。

そのために、環境デザイン学科では、つぎのような資質を持つ人を求めています。

- 1 高等学校での基礎的な諸教科（国語、数学、理科、外国語、地理歴史・公民など）についての十分な基礎学力
- 2 緻密な論理的思考力と判断力、社会に対する洞察力、デザインや造形に強い関心を持ち、表現し提案することへの熱意
- 3 生活環境がもつさまざまな側面を、技術的・文化的・社会的に把握するとともに、それが生み出されていくプロセスを理解し、実際にすぐれたモノや空間を構築したりデザインしたりするための基礎的素養と意欲

【入学者選抜の方針】

環境デザイン学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1に関する基礎学力の高い人材を見出すため、大学入試センター試験において、国語、地歴・公民、数学、理科、外国語を課し、個別学力検査において、外国語と理科を課す。

●一般選抜（後期日程）

上記1を確認するため、大学入試センター試験において、国語、地歴・公民、数学、理科、外国語を課し、上記2、3に関する高い能力をもつ人材を見出すため、個別学力検査において美術実技を課す。

●推薦入試

上記1については推薦書・調査書・志望理由書で確認し、上記2、3に関する高い能力をもつ人材を見出すため小論文と面接を行う。

●編入学試験

上記2、3に関する基礎的な知識や能力の高さを確認するため、英語を課すことにより基礎学力の一端を確認し、上記2、3に関する豊富な知識と意欲・熱意を持つ人材を見出すため、専門科目と面接を課す。

〔森林科学科〕

森林科学科は、地球環境の保全、森林資源の有効利用を目的として、森林とその生産資源に関する事象に対して総合的な教育研究を行い、環境問題、資源問題への取り組みを通じて地域貢献、ひいては国際貢献できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

森林科学科では、森林に対して興味や探究心を持ち積極的に学ぼうとする人、論理的な思考力や判断力を持って自ら問題を解決できる人、社会の一員として地域貢献や国際社会で活躍する意欲を持っている人、そういった学生を求めています。

【入学前に修得しているべき能力】

1 数学、理科に関する基礎的学力

森林科学の基礎的な学問体系となる数学および理科に関する基礎的な学力および分析力、理解力などを有している。

2 国語、英語に関する基礎的学力

英文長文などの読解力、論理的に思考できる能力、自分の考えを的確に伝えることができる表現力、他人と相互理解できるコミュニケーション能力などを有している。

3 地理歴史・公民の基礎的学力を有している。

4 自然や科学に対する興味と探究心を持ち、森林に関する諸問題を積極的に学ぼうとする意欲を持っている。

5 自然を慈しみ、自ら問題点を発掘し、物事を論理的に考え、広く社会の状況を把握できる能力を持っている。

6 森林に関係する分野において、産業の発展、地域貢献さらには国際的な視野に立った活躍を目指す意欲を持っている。

【入学者選抜の方針】

森林科学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

●一般選抜（前期日程）

大学入試センター試験として、国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語を課すことにより基礎的な学力を評価する。個別学力検査として、数学、理科、外国語を課し、これらの配点を高めに設定し、記述式問題を重視することにより論理的思考力、長文読解力などを評価する。

●一般選抜（後期日程）

大学入試センター試験として、国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語を課すことにより、基礎的な学力に特化した評価をする。

●推薦入試

高等学校までの英語および理科系科目全般について、基礎力と思考力を合わせた総合的な学力を身につけていることを求めるとともに、推薦書、調査書、志望理由書および面接などにより総合的に評価する。

平成30年度 京都府立大学 推薦入試 学生募集要項

1. 概 要

募集人員

学 部	学 科	募 集 人 員 (人)		
		府内	全国	合 計
文 学 部	日本・中国文学科	6	—	6
	欧米言語文化学科	8	—	8
	歴史学科	8	—	8
	小 計	22	—	22
公共政策学部	公共政策学科	10	2	12
	福祉社会学科	10	2	12
	小 計	20	4	24
生命環境学部	生命分子化学科	4	3	7
	農学生命科学科	* 8	* 7	15
	食保健学科	7	—	7
	環境・情報科学科	5	—	5
	環境デザイン学科	10	—	10
	森林科学科	* 6	4	10
小 計	40	14	54	
合 計		82	18	100

(注) *は特別枠1を含む。

日 程

願書受付期間	平成29年11月1日(水)～11月7日(火) 午後5時まで(本学に必着) ただし、期限後到着した場合は、11月6日(月)までの消印のある書留速達郵便に限り受け付けます。
試験実施日	平成29年11月25日(土)
合格発表日	平成29年12月8日(金)正午

(注) 合格者の発表は、合格者の受験番号を学内に掲示するとともに、可否結果を出身学校長に通知します。電話等による問い合わせには一切応じません。

また、本学ホームページ(<http://www.kpu.ac.jp/>)にも、合格者の受験番号を掲載します。

合格電報の勧誘は京都府立大学と一切関係ありませんので、ご注意ください。

2. 出願資格及び選抜方法

出願資格（出身学校長の推薦が必要）

(1) 府内

本人及び保護者が京都府内に在住で、かつ、京都府内の高等学校を平成30年3月に卒業見込の者又は大学入学資格が付与されている京都府内の専修学校高等課程の学科を平成30年3月修了見込の者であって成績が優秀なもの

※京都府内在住の条件

平成29年4月1日以前から引き続き京都府内に生活の本拠を置き、現に居住していること（住民票で証明できることが必要）

(2) 全国

高等学校を平成30年3月に卒業見込の者又は大学入学資格が付与されている専修学校高等課程の学科を平成30年3月修了見込の者であって成績が優秀なもの

※公共政策学部は、(1) 府内を含まない。 生命環境学部は、(1) 府内を含む。

(3) 特別枠（生命環境学部農学生命科学科の府内枠・全国枠 各1名）

（生命環境学部森林科学科の府内枠 1名）

農業・食品分野（農学生命科学科）、森林・環境分野（森林科学科）の専門教育に関する高等学校（学科）を平成30年3月に卒業見込の者であって、各専門分野をさらに発展させたいという成績優秀でチャレンジ精神を持つもの

(4) その他上記と同等の条件を有すると本学が認めた者

この場合、本学との事前協議が必要

※事前協議期間は、平成29年9月1日(金)～10月10日(火)

選抜方法

学 部	学 科	選 抜 方 法
文 学 部	日本・中国文学科	推薦書、調査書、国語及び英語の試験成績による総合判定
	欧米言語文化学科	
	歴史学科	推薦書、調査書、英語及び小論文の試験成績による総合判定
公共政策学部	公共政策学科	推薦書、調査書及び小論文の試験成績による総合判定
	福祉社会学科	
生命環境学部	生命分子化学科	推薦書、調査書、志望理由書、面接及び総合問題（高等学校の英語、理科、数学についての理解力、思考力を見る）の試験成績による総合判定
	農学生命科学科	
	食保健学科	推薦書、調査書、面接及び小論文（英語力、分析力、論理的思考力などを問う）の試験成績による総合判定
	環境・情報科学科	推薦書、調査書、テーマ作文及び面接の試験成績による総合判定
	環境デザイン学科	推薦書、調査書、志望理由書、面接及び小論文の試験成績による総合判定
	森林科学科	推薦書、調査書、志望理由書、面接及び総合問題（高等学校の英語、理科、数学についての理解力、思考力を見る）の試験成績による総合判定

本学各学科が指定する選抜方法の科目（小論文、面接を含む）を1科目でも受験していない場合、失格となります。

3. 推薦条件

学部	学 科	学部学科ごとの推薦の条件	一つの高校が推薦できる人員
文学部	日本・中国文学科	成績優秀な者 ただし、外国語12単位以上を修得している者	全日制、定時制及び通信制の各課程から各3名以内
	欧米言語文化学科		全日制、定時制及び通信制の各課程から各3名以内
	歴史学科		全日制、定時制及び通信制の各課程から各3名以内
公共政策学部	公共政策学科	高等学校在学中の国語、理科、数学、地理歴史、公民、外国語の評定平均値の6教科平均が4.0以上で、外国語12単位以上を修得している者	全日制、定時制及び通信制の各課程から各2名以内
	福祉社会学科		全日制、定時制及び通信制の各課程から各2名以内
生命環境学部	生命分子化学科	成績優秀な者で、化学基礎・化学を履修している者	全日制の課程から2名以内、定時制及び通信制の各課程から各1名
	農学生命科学科	成績優秀な者	全日制の課程から2名以内、定時制及び通信制の各課程から各1名
	食保健学科	成績優秀な者 ただし、理科12単位以上を修得している者	全日制、定時制及び通信制の各課程から各2名以内
	環境・情報科学科	成績優秀な者又は次の資格検定のいずれかに合格している者で、かつ、数学と理科については以下の条件を満たす者 (検定試験) ・公益財団法人日本英語検定協会主催実用英語技能検定試験2級以上 ・経済産業省主催基本情報技術者試験 (数学と理科についての条件) ・普通科の生徒については、数学Ⅲ、理科12単位以上を修得していること。 ・情報科学科の生徒については、数学は数学Ⅲ関連科目を修得していること。理科は理科関連科目(本来の理科科目の他に情報関連科目なども含める)を12単位以上修得していること。 ・工業高校の生徒については、数学は数学関連科目(本来の数学科目の他に、応用的な数学を主たる内容とした科目も含める)を13単位以上修得していること。理科は理科関連科目(本来の理科科目の他に、応用的な理科を主たる内容とした科目も含める)を12単位以上修得していること。 ＜理科関連科目、数学関連科目、数学Ⅲ関連科目の認定は環境・情報科学科が行う。＞	全日制、定時制及び通信制の各課程から各2名以内
	環境デザイン学科	成績優秀な者	全日制、定時制及び通信制の各課程から各2名以内。ただし、建築科については、上記の他に、高等学校建築科の入学定員が40名以内の場合は各課程から各1名、40名を越える場合は全日制の課程から2名以内、定時制の課程から1名の推薦を認める。
	森林科学科	成績優秀な者	全日制の課程から2名以内、定時制及び通信制の各課程から各1名

(注) ・本学が推薦要件として指定する教科科目を履修していないが、教科科目の読替が可能な場合は、平成29年10月10日(火)までに本学と事前協議してください。

ただし、既に教科科目の読替が協議済みで、かつ、履修条件に変更がない場合は、高等学校長名で変更がない旨文書で提出することにより、事前協議は不要です。

- ・修得単位数については、見込みを含む。
- ・評定平均値については、出願時点での直近の成績による。
- ・なお、指定教科に係る評定平均値については次のいずれを用いてもよい。
(小数点以下第2位を四捨五入)

- ①「指定教科中の各科目の評定値の合計数を、指定教科中の科目の合計数で除した数値」
- ②「指定教科毎に算出した評定平均値の合計を、指定教科数で除した数値」

4. 試験場及び日時

試験場 京都府立大学

試験実施日 平成29年11月25日(土)

試験時間			
学部	学科	推薦入試	
		科目	試験時間
文学部	日本・中国文学科	英語	10:00～11:00 (60分)
		国語	13:00～14:30 (90分)
	欧米言語文化学科	英語	10:00～11:30 (90分)
		国語	13:00～14:00 (60分)
	歴史学科	英語	10:00～11:00 (60分)
		小論文	13:00～14:30 (90分)
公共政策学部	公共政策学科	小論文	10:00～12:30(150分)
	福祉社会学科	小論文	10:00～12:30(150分)
生命環境学部	生命分子化学科	総合問題	10:00～12:00(120分)
		面接	13:30～
	農学生命科学科	総合問題	10:00～12:00(120分)
		面接	13:30～
	食保健学科	小論文	10:00～12:00(120分)
		面接	13:30～
	環境・情報科学科	面接	10:00～
	環境デザイン学科	小論文	10:00～12:00(120分)
		面接	13:30～
	森林科学科	総合問題	10:00～12:00(120分)
面接		13:30～	

〔受験についての注意事項〕

- 試験当日は、試験開始時間の30分前までに試験場に集合してください。
- 学力試験会場への携帯品等は、受験票・黒の鉛筆又はシャープペンシル(筆記機能のみ)・鉛筆削り(電動式を除く)・消しゴム・腕時計(計時機能のみ)に限ります。
 〈携帯電話・スマートフォンや腕時計は、必ずアラームを解除しておいてください。〉
 〈試験中は、必ず、携帯電話・スマートフォン等の通信機器の電源を切ってください。〉
- 歴史学科の英語試験のみ、英和辞典1冊の持ち込みを認めます(電子辞書は不可)。
 それ以外の学科及び試験科目については、辞典・辞書の持ち込みはできません。

5. 出願手続

願書受付期間	平成29年11月1日（水）～ 11月7日（火） 午後5時まで（必着）
--------	------------------------------------

期限後到着した場合は、11月6日（月）までの消印のある書留速達郵便に限り受け付けます。

出 願 必 要 書 類	
入 学 願 書	A・B票(本学所定のもの) A票右の「記入上の注意」をよく読み、必要事項の記入等を行ってください。 B票は切手(372円分)を貼ってください。
推 薦 書	本学所定のもので、出身学校長が作成したもの
調 査 書	高等学校所定の様式により、出身学校長が作成したもの
志望理由書	生命分子化学科、農学生命科学科、環境デザイン学科及び森林科学科のみ 志望動機及び自己PRを本人が本学所定の用紙に600字程度にまとめたもの
テーマ作文	環境・情報科学科のみ テーマ：わたしが感じる理系の魅力 市販 A4・400字原稿用紙横書きに、副題、学校名、氏名を記載し、それらを除いて2000字以内で、自筆で書いてください。
写 真	上半身・脱帽・正面向きのもの(4cm×3cm)で、出願前3か月以内に単身撮影した写真をA票に貼り付けてください。
入学審査料	17,000円 (1) 本学所定の「入学審査料振込依頼書」により、銀行または信用金庫等の金融機関から振り込んでください。(A票への金融機関押印により入金を確認します。) ※ATM(現金自動預け払い機)は利用できません。また、ゆうちょ銀行では、本学所定の「入学審査料振込依頼書」は使用できません。 ①京都銀行から振り込む場合、手数料無料 ②その他の金融機関から振り込む場合、所定の手数料が必要 (2) 金融機関から振り込めない場合又はゆうちょ銀行から払い込む場合は、ゆうちょ銀行の普通為替証書を同封してください(普通為替証書発行には所定の料金が必要)。普通為替証書の受取人欄等については、記入しないでください。
本人及び保護者の住民票	【京都府内枠志願者のみ必要】 (全国枠志願者は不要) 本人及び保護者の住民となった年月日が記載され、公印が押印されているもの ※本人及び保護者が平成29年4月1日以前から引き続いて京都府内に居住していることを証明するために必要。ただし、複数枚にわたる場合は、全て提出すること。

〔出願についての注意事項〕

- (1) 必要書類を整え、志願者ごとに本学所定の封筒を使用し、出身学校ごとにとりまとめの上、書留速達郵便で提出してください。
- (2) 必要な書類が全てそろっていない場合は、受理できない場合があります。
- (3) 入学願書受付後は、志望学科の変更はできません。また、提出書類の返却はいたしません。
- (4) 入学願書受付後は、次の場合を除き、入学審査料はお返ししません。
 - ・二重に振り込んだ場合
 - ・出願書類を提出しなかった場合
- (5) 入学願書受付完了後、11月15日頃に受験票を発送します。試験日の5日前までに受験票が届かない場合は、学務課入試担当(TEL075-703-5144)にお問合せください。

提 出 先

〒 606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5
京都府立大学 学生部 学務課 入試担当
電話 (075) 703-5144 (直通)

6. 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

本学では、身体等に障害を有する（学校教育法施行令第22条の3に定める程度、その他これに準じるもの）者の受験の際及び入学後の修学上必要な支援内容を検討するため、事前相談等の措置を設けています。

このため、入学を志願する者で、身体等に障害があり、受験及び修学上特別の配慮を必要とする者（学校教育法施行令第22条の3の規定に準拠）は、次の期日までに、あらかじめ学校長を通じ本学へ連絡し、相談してください。

事前相談期日：平成29年10月10日（火）まで

7. 不正行為について

1 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、それ以後の受験はできません。また、既に受験したすべての教科・科目の成績も無効となります。

- ① カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験生の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- ② 使用の認められたもの以外の用具を使用して問題を解くこと。
- ③ 「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり、解答を始めること。
- ④ 照合票に本人以外の写真を貼ること。
- ⑤ 本人に代わって受験し、又は、受験させること。
- ⑥ 試験時間中に答えを教えるなど他の受験生を利するような行為をすること。
- ⑦ 試験時間中に携帯電話・スマートフォン・腕時計型端末や電子辞書、ICレコーダ等の電子機器類を使用すること。
- ⑧ 「解答やめ。鉛筆を置いて問題冊子を閉じてください」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり、解答を続けること。

2 上記1以外に次のことをすると不正行為になることがあります。指示に従わず、不正行為となった場合の取扱いは、1と同様です。

- ① 試験時間中に携帯電話等や時計等の音（着信・アラーム・振動音など）を長時間鳴らすなど、試験の進行に多大な影響を与えること。
- ② 自身を利するような虚偽の申し出をすること。
- ③ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ④ 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- ⑤ その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

8. その他推薦入試の注意事項

- ・合格者は、特別の理由がない限り入学を辞退することはできません。
- ・合格者は、入学辞退を認められた場合を除き、本学及び他の国公立大学の個別学力検査（一般選抜）を受験しても合格者とはなりません。
- ・本学が指定する期日までに入学手続きが完了しない者は、合格者としての権利を失います。なお、この場合、本学及び他の国公立大学の個別学力検査（一般選抜）を受験しても合格者とはなりません。
- ・生命環境学部環境・情報科学科では、推薦入試により入学した者については、転学部及び転学科を原則として認めません。
- ・大学入試センター試験に出願した者は、実際の受験の有無に関わらず、入学手続き時に大学入試センター試験受験票が必要ですから大切に保管しておいてください。

9. 悪天候・災害等の試験実施について

悪天候や災害等で入学試験の実施が危惧される場合は、試験時刻の繰り下げ等の措置内容を、試験当日、試験開始時刻1時間前に本学ホームページ(<http://www.kpu.ac.jp/>)に掲載します。(予定どおり実施の場合は、特に掲載しません。)

10. 入学手続及び学費等納付金

入学手続

合格者には、合格発表後、合格通知書と併せて入学手続に必要な書類を学校長に発送しますので、次により入学手続を行ってください。

入学手続日 平成29年12月25日(月) 午前10時から午後3時まで

※入学手続後は、理由の如何を問わず、入学料はお返ししません。

学費等納付金(入学料・授業料等) ※金額は改定される場合があります。

	種 類	金 額	備 考
入学料	京都府内額適用者	169,200円	入学手続までに、所定の振込用紙にて振り込んでください。
	上記以外の者	282,000円	
授業料	前 期	267,900円	入学後、口座引き落としにより、前期(5月。次年度以降は4月)と後期(10月)の2回の分納となります。
	後 期	267,900円	
	計	535,800円	
学生教育研究災害傷害保険料		4,660円	入学手続までに、所定の振込用紙にて振り込んでください。

(注) 京都府内額適用者とは、平成29年4月1日以前から引き続き京都府内に生活の本拠を置き、現に居住しており、住民票で証明可能な者をいう。

11. 試験成績の開示について

下記のとおり推薦入試の成績の開示を行います。

① 申請者

推薦入試の受験生本人

② 開示する内容

採点結果の総合得点による順位

③ 申請期間

合格発表日の翌々日から起算して1ヶ月間(土・日・祝日及び12月29日から1月3日を除く)

④ 申請の方法

京都府立大学学務課に来学の上、受験票原本又は本人であることの確認ができるものを提示し、申請してください。

試 験 場 案 内

- 入学試験会場
- 所在地
- 交通機関

京都府立大学
京都市左京区下鴨半木町 1—5

- ①② JR 京都駅・
 阪急烏丸駅から 地下鉄烏丸線 「北山」 駅下車 1 番出口から南へ徒歩 10 分
- ③ 京阪出町柳駅から 市バス 1 系統「府立大学前」下車 北へ徒歩 5 分
 京都バス 32、34、35 系統「府立大学前」下車 北へ徒歩 5 分
- ④ JR 二条駅から 市バス 206 系統「府立大学前」下車 北へ徒歩 5 分
 地下鉄東西線「烏丸御池」駅下車乗換、烏丸線「北山」駅下車 1 番出口から南へ徒歩 10 分

(注意)

- ・ 合格電報の勧誘は、京都府立大学と一切関係ありませんので、ご注意ください。
- ・ 試験場内への二輪車(自転車・バイク)、自動車等の車両の乗り入れはできません。
- ・ 昼食は各自持参してください。



お問い合わせ先

京都府立大学学生部学務課入試担当

〒606-8522京都市左京区下鴨半木町1-5

電話（075）703-5144（直通）